

# バラがむすぶ地域・国際交流

附属福山高等学校副校長 ◆ 落 健一



▲バラ園でバラの鑑賞と交歓

広大フォーラム一九九四・三・一号で附属福山中・高等学校を紹介しました際、「バラの街・バラの学校」として、福山のばら公園とともに当校の学校バラ園がすっかり有名になり、福山ばら祭の期間中には、観光バスまで車を連ねて訪れることをご報告しました。約千株のバラが、通学路沿いに校庭に絢爛豪華に咲き誇り、教職員・生徒や教育実習生はもちろん、福山市民の憩いにもなっているのです。

がた(ブルガリア大使御夫妻、韓国総領事御夫妻、ドイツ領事御夫妻、アメリカ領事御夫妻)や岡崎市副議長ほかの方がたが、ミス「ばら」や福山市役所の方がたと一緒に、当校にいらつしやいました。

「オリープ」(教育実習宿泊施設)のホールにおいて頼永正孝校長の日本語による挨拶(通訳つき)のあと、生徒の代表が流暢な英語でバラ園の説明をし、

We are going to show you  
around our garden soon.  
Please enjoy yourself.

と結ぶと、大喝采が起りました。バラ園のまわりでは、ちょうど美術の授業中で、生徒たちはバラの花を写生しておりましたが、お客様たちはスケッチをのぞいて見たり、生徒に話しかけたりなさりながら、楽しそうにバラ園を散策されました。

教室の授業も参観したいというご希望でしたので、改装したばかりのコンピュータ教室へお連れしましたが、日本の情報教育のレベルの高さに感心していらつしやったようです。市役所の国際係の方が、外国の方がたをお招きしても国際交流は非常にむずかしいのに、ここではそれが自然にできて本当によかった、とお礼を言われました。バラをご縁にした国際交流の楽しい一時は、私たち教職員や生徒

にとつても思わぬ貴重な体験となりました。(この日行われたバラのコンクールでは、グランプリに相当する市長賞や、ドイツ賞、アメリカ賞など五つもの賞を頂き、私たちの学校がバラを通して地域ともしっかり結びついていることを強く感じました。)

# 歯学部創立三十周年記念行事

歯学部創立三十周年記念事業実行委員会

広報小委員長 ◆ 竹中俊彦



平成七年四月二十九日(土)歯学部創立三十周年記念行事が、ホテル「グランヴィア広島」で四百余名の参加者を得て盛大に行われた。

当校はバラ園のほかにも、校庭全体を万葉植物園としたり、文部省の研究指定校や大学との共同研究による「環境教育」の実践的研究をしたりして、「緑の学校づくり」を進めています。どうぞ福山附属を一度お訪ねください。(おち・けんいち)

午後三時から記念式典が行われた。杉中秀壽歯学部長・実行副委員長の式辞に始まり、関野憲三実行委員長、原田康夫広島大学長、長坂信夫歯学部附属病院長の挨拶が続いた。また、来賓を代表して、藤田雄山広島県知事、平岡敬広島市長、松島悌二広島県歯科医師会長の挨拶に引き続き、四月二十八日に学術交流協定を結んだ中華人民共和国・華西医科大学口腔医学院の周学東院長より祝辞が述べられた。

記念式典に引き続き、前東京大学教授 養老猛司先生による「脳の進化と退化」と題したの記念講演が行われた。「脳を老化させないためには、活性酸素を高めるジョギングなんてことはしないで静かに横になっている方がいい」といったユーモアを交えながら、難解な脳の話をも、楽しく一時半にわたってご講演いただいた。午後六時から記念祝賀会が開催された。祝